



# る う て る

2013年  
**8月**  
No.795

●発行所  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1  
電話 03-3260-8631  
●振替口座 ■ 00190-7-71734  
●ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>  
●E-mail ■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)  
●発行人 ■ 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp  
●印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社  
●定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

## 説教 「信仰の完成者イエス」

日本福音ルーテル新霊山教会 後藤由起

「こういうわけで、わたしもまた、このようにおびたらしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかたぎり捨て、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右しお座りになったのです。」  
へフライ人への手紙 12章1節、2節

アメリカ留学中に、こんなジョークを聞きまし

ある教会で、照明の電球が切れた。牧師が管財係に「電球を新しくしておいてくださいませんか」と頼むと、「え？何か変えるんですか？」と嫌な顔。そこはルーテル教会だった。

笑えましたでしょうか？ルーテル教会は、電球一つでさえ変化することを嫌がる、という意味です。しかしながら、人々の価値観やライフスタイル、人口構成や経済状況など、教会を取り巻く状況



況は日々、変化しています。これまでどおりの形で集会を続けたり、建物や牧師給を支えることが困難な教会は増えています。そんな中、ミネソタのルーテル神学校では、開拓伝道について学ぶクラスを受講しました。必ず出てくる神学生からの質問は、「ある教会を保つだけでも大変で、閉鎖や合併していく時代なのに、なぜわざわざ教会を増やすのか」というものでした。そこで出てくるキーワードは、churchplanting(これまでと同じものの複製を作る)なのかchurchplanting(新しい教会をつくり上げる)なのか、でした。

あるアメリカ福音ルーテル教会の教会では、一階の礼拝堂で伝統的なルーテル教会の礼拝が行われ、その同じ時間に、地下では別の集会が礼拝をされています。この礼拝は、私たちが想定している教会のスタイルとは少し違います。クラスでは賛否両論あつて、議論が白熱しました。この教会は、これまでの伝統的な形を少し変えてでも、社会の中でイエス様の弟子として生きることを大切にしています。だから、人々に任えるために実際に外に出ていき、行動していました。ほかにも、建物を持たない教会、弱い立場の人々と歩む教会と、このクラスの卒業生たちがユニークな宣教をしていました。



うのです。そこで私たちに問い直されているのは、ただ数字上の教勢ではなく、イエス様の弟子を生み出し、育つことです。

へフライ人への手紙は、「自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」と励まします。この手紙が書かれたとき、迫害の中で信者たちが信仰を守り抜くことがとても困難な時でした。そんな中で、イエス・キリストを信じる信仰にとどまることを、著者は競技場で走る競争にたとえています。しかもその競争は、「自分に定められている競争」です。「自分で定めた」ではありません。ですから思いわずらいや突然の状況変化も起こります。けれどもその競争を私たちが一人で行うのではなく、先導者であり同伴者であるイエス様とともに走ります。そこには、私たちが導き、信仰を完成させてくださるのはイエス様であるという信頼があります。

つまり、私たちは自分自身で「完成」してしまうのではありません。イエス様の弟子として、いまだに途上であり、歩み続けている者です。教会も同じなのではないでしょうか。地上にあり、今なお完成に向かって歩み続けている教会は、私たち自身が「完成形を定めてしまふとき、「教会の維持」が目的になってしまいます。けれども私たちは、目的への途上にあり、整えられていく過程の中にあります。道の途中であるからこそ、試練もあり、変化も起こります。

慣れ親しんだスタイルが変化していくのは、時には寂しく、時には戸惑いませす。けれどもイエス様の十字架の道に従っていくこととは、私たち自身も、自分にとって慣れ親しんだ心地よい教会を維持するだけではない、人々とともにある、現代社会の中での教会へと整えられていくことではないでしょうか。イエス様の十字架の歩みは復活へと続いています。教会の宣教は、困難な時になお希望が約束されています。復活へと続く道を、信仰の創始者また完成者であるイエス様が、導いてくださっています。宣教が大胆に進進するように祈り求めようではありませんか。

### 2013年度 日本福音ルーテル教会 教師試験実施のお知らせ

2013年9月13日(金)午後5時までに 必要書類を揃えて教会事務局に提出

詳しくは4面で

宗教改革500周年に向けて ルターの意義を改めて考える(16)

ルター研究所長 鈴木浩

罪に陥つた人間の姿の「診断」が「問論」であった。他方、その診断に対応した「処方箋」が「救済論」であった。

不治の病にかかった人間それが診断であった。それを癒すことができるのは、医師であるイエス・キリストしかない、それが、処方箋であった。

この医師は治療を請け負い、赤糸のように、治療費などはいらぬ、と言ふ。「恵みのみ」である。病人は、この医師に頼り、すっかり身を任せ

る。「信仰のみ」である。終わりの一貫キリストだけが頼りなのだ(キリストのみ)。

2014年度 リラ・プレカリア 研修講座受講生募集

- 開講期間 2014年4月～2016年3月(2年間)
- 募集人数 最大10名まで
- 応募資格 全期間の研修に専心できる方 自宅でのハーブ練習が可能な方 年齢・性別・宗教による制限はありません
- 研修費用 2年間合計 100万円
- 問合せ・申込み先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 日本福音ルーテル社団(JELA) リラ・プレカリア5期募集係 電話 (03) 3447-1521 FAX (03) 3447-1523 Eメール [jela@jela.or.jp](mailto:jela@jela.or.jp) 詳しくは: <http://www.jela.or.jp>

### 信徒の声

## 「十字架からの平和」

長崎教会(客員) 広瀬 訓



「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」  
 マタイによる福音書25章40節

日本、特に広島、長崎においては、毎年8月になると平和関連のイベントや集会が目白押しである。もちろん8月15日、あるいは8月6日、8月9日に、犠牲となった人々を偲び、戦争の悲惨さを思い起こし、二度と戦争を繰り返さないという決意を確認することは極めて重要なことである。しかし、それ以外の時期に、私たちはどう戦争の問題に取り組んでいる

だろうか。また、「痛い思いをしたから、二度と戦争という過ちを繰り返したくない」という以上のメッセージは、発信されているだろうか。特に昨今の日本の国内の言論状況をみると、体験として戦争を語る方が少なくなるにつれて、「喉元を過ぎれば熱さを忘れる」という状況に陥っているような気がしてならない。このあたりで、「何故戦争はいけないのか」という理由を、真剣に考えてみる必要はないだろうか。当たり前のことであるが、戦争とは突き詰めて言えば、「人殺し」で

ある。どのような理由や正当化を試みようともその事実是否定できない。昔フィリピンで、戦争や原爆のきのこ雲、餓死しそうなっている瘦せた子どもの写真等を数枚流した後で、「私たちは復活された主を再び十字架に架けるような真似をしていないだろうか？」というメッセージが一言だけ入るスポットが、イースターの時期にテレビで放映されていた。ほんの一分程度の短いスポットだったが、20年以上経った今でも鮮明に思い出せるほど強烈な問い

かけであった。まるで「あなたも、私が自分の命を犠牲にしてまでも救おうとしたあなたの兄弟姉妹に対して、何をしていますか？」と十字架の上から問いかけられたようなショックであり、それに対してまともに対応することができない自分のふがいないさに涙が出そうだった。

少なくとも私にとって「主に従う」ということは、「主が慈しんだ人々を、私も大切にしたい」ということであり、私のキリスト者としての「平和」への願いはそこから始まったのである。



ランが再開し始めた8月にかけて、7名の方がそれぞれの役割を果たし、次のステージに移る小さなお手伝いができました。その後、リバーサイド春園は別の医療施設に間借りをし、さらにプレハブ式の仮設事業所に移るなどして介護事業を

「JLERブログ」  
<http://lutheran-tonaribi.tblogspot.jp/>



続けてきました。そしてこの6月、ようやく新しい場所に新しい建物が完成し、新しい門出のお手伝いということと、スタッフとボランティア計10数名で、6月4〜5日と19〜20日の2回に分けて引越しのお手伝いをしました。引越し作業には、介護ボランティアとしてリバーサイド春園にかかわった人も参加してくれ、2年ぶりの再会を喜ぶ場面もありました。職員の方からは「あの頃にはまったく想像できなかったけど、2年たってなんとかここまでできました」といった言葉が聞かれました。完全な復興までにはまだまだ時間がかかるようですが、これから事業が順調に進むことを祈るばかりです。一方で、被災地各地で介護職員が疲弊しているという話を聞くことから去年に引き続き介護職向けのケア講座などにも取り組む予定です。

### 牧師の声

## 「デンマーク牧場福祉会 10周年感謝会報告」

静岡教会 藤井邦夫

社会福祉法人デンマーク牧場福祉会10周年感謝会が6月22日にデンマーク牧場近郊の袋井市立メロンプラザにおいて行われ、前半は講演会及び式典、後半は3つの各施設や福祉村構想についての発表がなされました。参加者は約150名(地域の人約30名、教員関係約80名、施設関係40名)でした。

感謝会は司式後藤由起チャプレン、説教齋藤幸二教区長による礼拝によって厳かに始まり、来て来た袋井市長が説教の内容に触れて挨拶をされたように、しっかりと礼拝によって始められた

ことはキリスト教会が設立母体の福祉会としてとても恵まれたことでした。講演はわれらルーテル教会の誇りでもある前熊本県知事潮谷義子氏(写真)によるものでした。いつも話しぶりにより福祉の精神や問題を説かれ、多くの人が感銘を与えられました。

来賓として袋井市長が挨拶をされましたが、その中でデンマーク牧場福祉会は袋井市の人たちにとって誇りでもあること、そして市として支援を惜しまないことを話され、勇気づけられたことでした。そのあと10年動線や特

別功労者として10名の方々が表彰されました。福祉会の設立前からデンマーク牧場の歩みを担い支えてくださった方、また設立当時からその働きを担ってくださった方を覚える感謝の時でした。

昼食をはさんで午後は3つの施設の施設長が、働きの意味や歴史・現状を発表し、また北欧に福祉の視察に行った職員の報告があり、そのあと東海教区より福祉村将来構想についての発表がありました。

設立時は無謀とも思える計画と考える人たちが多く、借入金並に多くの困難を抱えた歩みでしたが、



神様が人々に信仰による励ましと夢を与え、その時々にはふさわしい人を興してくださった歩みで、まがず神の国と神の義を求めていく時に、人間の思いを越えて神様に導かれていくことを感じることでできた感謝会でした。

### JLER(ルーテル教会救援) 対策本部 現地からのレポート JLER派遣牧師 野口勝彦

間もなく、東日本大震災から2年5ヶ月が経とうとしています。被災地には皆様のお支えとお祈りにより一日一日、着実に復興に向かっていきます。

今月号では、震災直後から支援を続けている老人介護施設等の現状について担当スタッフより報告させていただきます。

チーフスタッフ 佐藤文敬

生活のために59人の利用者の方が亡くなるなど大きな被害がありました。この甚大な被害を聞き、ルーテル教会救援では物資支援とともに介護ボランティアの派遣なども行いました。この介護ボランティアの派遣は、自ら被災し家を失い避難所生活をしながらも高齢者の介護を続けている職員の方たちが、疲れきってしまわないように少しでも支えようということでも支えようという事で取り組んだ支援でした。

派遣した介護ボランティアは、ルーテル教会関連の介護施設の職員の方を中心に合計7名。食事は避難所用の弁当のお裾分け、お風呂は自衛隊風呂という状態だった5月からファミリーレストランが再開し始めた8月にかけて、7名の方がそれぞれの役割を果たし、次のステージに移る小さなお手伝いができました。その後、リバーサイド春園は別の医療施設に間借りをし、さらにプレハブ式の仮設事業所に移るなどして介護事業を

続けてきました。そしてこの6月、ようやく新しい場所に新しい建物が完成し、新しい門出のお手伝いということと、スタッフとボランティア計10数名で、6月4〜5日と19〜20日の2回に分けて引越しのお手伝いをしました。引越し作業には、介護ボランティアとしてリバーサイド春園にかかわった人も参加してくれ、2年ぶりの再会を喜ぶ場面もありました。職員の方からは「あの頃にはまったく想像できなかったけど、2年たってなんとかここまでできました」といった言葉が聞かれました。完全な復興までにはまだまだ時間がかかるようですが、これから事業が順調に進むことを祈るばかりです。一方で、被災地各地で介護職員が疲弊しているという話を聞くことから去年に引き続き介護職向けのケア講座などにも取り組む予定です。



### 第二章「震災後に迎える宗教改革五〇〇周年 その一 大災害時下のルターの活動を覚えつつ」

「未来については、過去ほどにデータは存在しない。しかし過去を立派に分析することは、未来へのよりよき想定のためとなる。そうした観点から、・「東日本」大震災の時代を生きたるわれわれの共同の運命を訪ね、その中でこの列島の住人が悲慘を超えてよりよく生きる道を問いたいと思う。」震災復興構想会議の議長を務めた歴史・政治学者、五百旗頭真氏は『毎日新聞』掲載中のシリーズ「大災害の時代」の冒頭で述べている。

一四世紀の中頃からヨーロッパでは『暗黒の時代』とも記録されるほどにペストが大流行、一三三七年イタリアの港町で発覚、一七世紀にかけて、ほぼヨーロッパ全域が黒死病の恐怖に曝された。僅か三、四年の間に蔓延、発病して一週間以内の町や村は壊滅状態に陥ったと伝わる。施す術



説教を説くルター (Martin Luther preaching, ELCA Archive Image より)

もなく人々は死の恐怖に襲われた。ルターは一五二七年、ウィッテンベルグに、ペストが蔓延した折り、説教に更に深く牧会的配慮を鼓動させ、恐怖に戦く人びとが誇大化した噂（風評被害）に打ち勝つのに、神の右の御手に座したもう甦りのイエスへの信仰がいかに堅固な支えであるかに始まり、町の役人、医師たちへの適切な指示や大衆への迫力に満ちた勧めなど極めて具体的な指導を行なった。しかも現場に踏み止まり続けて病人を看とり、牧者としての務めを果たした。司祭たちへも町を離れずに留まるべきことを強く訴えた、「困難や危険の時はいつでも、私たちは隣人たちと触れ合う必要があり、その人たちに、じかに触れ合うことが至上命令的に求められている。ある家が火災にあったとすると、その時、愛は私にそこへと走らしめ火を消し

止めることをいや成なしに迫る。その火を消すのに、他の人たちが十分そこに居合わせたならば、私はわが家へ引き返すか、そこに踏み止まるか、その時は何れでもよいわけだ。自分自身や財産への危険や危害がないことを見届けなければ他人を助けられないという人には、その隣人を手伝うということなどは決してありえない。」ヨハン・ヘスからの「人は死から逃れるべきかどうか」という質問への応答だった。

事実、多くの患者たちがルターの腕に抱かれ慰めを受けつつ息を引きとつたと伝えられる。ルターは、神学教師、説教者あるいは改革という一大運動の立役者の陰に、人びとの魂へのキメ細かい配慮、慰め、指導（seelsorge）という牧会のわざをたえず大事にしていた。

### 第1回全国青年 Bible Camp 報告

大垣教会 秋田司奈

私はクリスチャンホームに生まれ、高校生までは日曜日には教会へ行くのが当たり前、8年前に堅信を受け社会人になり教会から離れた時期もありましたが最近また通い出した、そんな決して熱心とは言えないクリスチャンです。10年前から何度かこどもキャンプ（旧国際キャンプ）のスタッフをさせてもらっています。ジュニアリーダーをさせて

私に生まれ、高校生までは日曜日には教会へ行くのが当たり前、8年前に堅信を受け社会人になり教会から離れた時期もありましたが最近また通い出した、そんな決して熱心とは言えないクリスチャンです。10年前から何度かこどもキャンプ（旧国際キャンプ）のスタッフをさせてもらっています。ジュニアリーダーをさせて

もらった10代はとにかくキャンパーと同じ目線で遊び楽しんでいました。堅信を受けてリーダーをさせてもらった時はキャンパー+ジュニアリーダーを見守る、助けるといふ役割がありましたが、私にはどうしてまでできていないなあ…という感想しかもてませんでした。それは何故なのか？ 答えは私自身聖書について詳しくない、イエス様について語るこ

とが出来ない、そもそもちゃんと聖書を読んだことがない！ 毎週教会へは行って礼拝を守っているのにできないことだら

け、そして自分から学ぼうとしてもいかなかった。こんな私がリーダーでは…と考えるようになり聖書やイエス様のことを勉強してみたいと思うようになりました。これが参加の理由です。1日目、夕方に集合し英語と賛美の礼拝→お風呂・食事→自己紹介。この自己紹介では参加者それぞれの参加理由を聞くことが出来（聖書・イエス様について）、よく知らないの自分だけじゃないとちよつと安心しました。2日目は、朝の祈りから始まり、聖書の読み方。私も頑張ろうと思いましたが、次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

## 洗足のキリスト

ステンドグラス工房 アスカ 山崎種之(松本教会会員)

敬いお仕える働き人のガラスにするため、出ないようにつとめましのモットーにふさわしいと話しあわれまされた。「洗足のキリスト」の原画は、切り絵作家としても有名な、定年教師の小嶋三義牧師が、清瀬市での静養中、病苦を押して製作されました。ステンドグラス



け、そして自分から学ぼうとしてもいかなかった。こんな私がリーダーでは…と考えるようになり聖書やイエス様のことを勉強してみたいと思うようになりました。これが参加の理由です。1日目、夕方に集合し英語と賛美の礼拝→お風呂・食事→自己紹介。この自己紹介では参加者それぞれの参加理由を聞くことが出来（聖書・イエス様について）、よく知らないの自分だけじゃないとちよつと安心しました。2日目は、朝の祈りから始まり、聖書の読み方。私も頑張ろうと思いましたが、次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

また2日目の嬉しいプログラムとしては、4月から地球の裏側で信徒伝道師となり働いている仲間と話すです。本間に世界が近くなり、繋がっているんだと思えました。彼女も頑張っている。次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

また共に食べ・学び・語り・笑えた仲間にも感謝です。少しだけ持つことが出来た自信を胸に今度は自分の教会で奉仕ができたらいなと思えます。

次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。

次回第2回BIBLE CAMPが開かれることを切に願います。



### 第31回教会音楽祭 テーマ曲の作詞作曲は ルーテル教会員!

去る6月8日に開催された第31回教会音楽祭その様子と、公募し、入選した奉唱讃美歌の作詞者・作曲者が共に日本福音ルーテル教会の会員であることは先月号で報告したとおりです。

そのお二人に入選の感想文を書いていただきました。

#### 「帰れる日」

作詞

羽村教会 阿部富美子  
(教会音楽委員会 嘱託)

1. 海がみんなのみこんで来た  
それがあなたの苦しみ

わが合い生きて行く  
豊かな海に  
爽やかな大地に  
帰れるその日を祈ります

2.

海がみんなさうだった  
それがあなたの哀しみ  
わが合い生きて行く  
壊れたふるさと  
返してください  
帰れるその日を祈ります

会場のウェスレアン・  
ホーリネス教団の淀橋教  
会に日ごろ交流の少ない、  
超教派の皆様の讃美歌が  
響きわたりました。

テーマ」にも希望の歌  
を」ということで、公募さ  
れていたうたをこのよう  
に作詞させていただきました。  
私の詩に同じルーテ  
ル教会、広島教会の永井幸

恵姉が作曲をしてくださ  
いました。その日、初めて  
楽譜を見て、とても感動い  
たしました。私の平凡な  
詩が生かされて歩いてい  
たのです。歌いやすく、親  
しみのある素敵な曲でし  
た。その曲を会場の兄弟姉  
妹とともに歌えたととき、心  
はふるえました。

一年を過ぎても、東日本  
大震災の復興の足音は  
遅々として進みません。思  
いばかりで何も出来ない  
ことが、歯がゆくてなりま  
せん。皆様とともに祈り、  
希望をもちたいと思いま  
す。

作曲をしてくださった  
永井さんそして私の詩を  
用いて下さった実行委員  
の皆様と主に感謝いたし  
ます。

「共に希望の歌を」  
作詞  
広島教会 永井幸恵

私は、この音楽祭に参加  
する前に、石巻に足を運ん  
でいました。町全体が津波  
で流された被災地に立ち、  
祈らせていただきました。  
そして、被災地の方々の  
声なき声を胸に、音楽祭へ  
と向かいました。

「イエス様が十字架の上で苦  
しみを受けてらるる時  
に、『わが神、わが神、ど  
うして、私をお見捨てになっ  
たのですか』という言葉を  
口にされましたが、それは  
詩編22編の引用であり、イ  
エス様は、あの苦しみの中  
で、歌っておられたので  
す」という言葉がとても印

象に残りました。  
いろいろなジャンルの  
賛美が歌われましたが、  
「共に主を賛美する」思い  
で一つになり、私たちは心  
いつぱい賛美しました。

広い礼拝堂に大勢の  
方々が集まり、荘厳な賛美  
が捧げられた時には、まさ  
に天国のような光景で涙  
が止まりませんでした。す  
ばらしい貴重な経験をさ  
せていただき、心から感謝  
いたします。



左が広島の永井さん、右が羽村のさん



牧師 ROCKS なるものがある  
のを御存知でしょうか。「東教  
区50年」を記念して結成され  
お坊さんたちの平和への共  
闘をテーマにライブコンサ  
ートを実現。当日、会場はど  
からおはあちゃんまぐクリス  
チャンから仏教徒まで160  
人の超満員でした。演奏は、  
ヴォーカル・ギター・鍵盤能神  
学生、ギター・笠原光見神学生  
ら、ベース・関野和寛牧師、ド  
ラム市原俊也牧師でした。

「あなたは今日わたしと  
一緒に楽園にいる。」(ルカ  
23章43節)そう告げる十字  
架のイエスの言葉がライ  
ブ会場をどよめかせる中、  
そのライブは始まった。  
牧師二人と見習い二人、罪  
の赦しを求める彼らに与  
えられた白いアルパにギ  
ターを抱え、スティックを  
握り、激しいビートにのっ  
て痛々しい程まっすぐな  
魂の叫びを突きつける。  
会場を埋める人々は体を  
揺さぶらせ、拳を突き上げ  
て、それに心える。ご高齢  
の女性はステージ最前列

でスマートフォンを片手  
に声援を送り、小さく子ど  
もたちは目を凝らし、新しい  
命を宿している女性は、そ  
れでも ROCK に身を委ね  
る。

対する坊主バンドは「坊  
主バー」を運営する現役僧  
侶を中心に、若き檀家総代  
まで多彩な人たちが。お経  
もボサノバも歌う。楽しげ  
に、慈しむように、格好つ  
けない本音の歌は優しく、  
人に楽園を思わせる。  
宗教や思想、民族や領  
土、人との間に境界線を  
引きながら私たちが、ただ  
同じステージに立ち歌う。  
教理を議論するのでも、祈  
りや奉仕活動を共にする  
のとも違う、創造的な第三  
のエキューメンカルが歴史  
に顔をのぞかせたのだ。

### 事務局二ニュース

#### 2013年度 日本福音ルーテル教会教 師試験実施のお知らせ

聖書を讃美いたします。  
さて、2013年度の日本  
福音ルーテル教会の教師  
試験を下記要領にて実施  
いたします。教師試験を受  
けようとする志願者は下  
記書類を整え、教会事務局

にご提出くださいますよ  
うご連絡の程、よろしくお  
願いたします。

#### 記

- 1 提出書類  
・ 教師志願書  
2 志願理由書

「提出書類」  
「提出期限(期限厳守)」  
2013年9月13日  
(金) 午後5時までに  
教会事務局に提出

「提出先」  
日本福音ルーテル教会  
常議員会長 立山忠浩  
宛

- ・ 書式 A4横書き  
・ フォントサイズ  
11ポイント

(注意事項)  
1 簡潔な文章で記すこ  
と  
2 「召命感を明確に記す  
こと」

- 3 履歴書(学歴、職歴、信仰  
歴、家庭状況等)を記入す  
ること
- 4 教籍簿本(所属教会教  
籍簿の写し)
- 5 成年被後見人または被  
保佐人として登記され  
ていないことの証明書  
(法務局交付のもの。任  
用試験時に必要になり  
ます)

6 所属教会牧師の推薦書

7 神学校卒業(自見診証明  
書及び推薦書)

8 健康診断書(事務局に  
所定の用紙があります)

試験日及び試験内容  
直接本人に連絡します。

#### 信徒常議員に選ばれて

西教区信徒常議員  
松江教会 狩野俊明



1993  
年、松江教会の  
代議員に選出  
されてから20

年経過いたしました。その間、  
西教区の常議員として7年間  
働かせていただき、今年の2  
月に常議員の異動により会計  
を担当することとなり信徒常議  
員の役を引き受けさせていた  
だきました。

物心ついた頃よりクリス  
チャンホームとして教会へ行

く生活を送りながら、大学時  
代は全くといっていいほど教  
会へは行かず気ままな生活を  
送り、帰省して社会人になり  
また教会へ足を運ぶというな  
んどもこれがクリスチャン  
か、という生活でした。松江  
教会の代議員になり、教会内  
の牧師と信徒との問題、教会  
の転戦、兼牧としての選択  
肢等、いろいろな困難の道の  
りを教員の支えと牧師先生  
の励まし、なにももまして神  
様からの導きで乗り越えてま  
いりました。

牧師と信徒との問題に関し  
ては、当時の教区ならびに本

教会常議員を経て解決の道  
をお示しいただきましたが、  
今回信徒常議員として各個人  
の問題に関し意見を述べ判  
断をしなければいけない立場  
となるわけで大変な重責を担  
うこととなりますがこれも神  
様が備えたものこととして受  
け入れようと思えます。

松江教会は2001年4月  
に新しい教会堂を建築いたし  
ました。21世紀最初の教会堂  
と自負いたしております。建  
堂から12年経過し兼牧の道を  
歩んできておりますが、その

間7名の牧師先生が代わって  
おります。これが地方の教会

の現状かと問えば、  
との返事が返ってまいります  
が、そのことで福音伝道が後  
退するならば、  
断るならば、  
てはなりません。

キリストの十字架を仰ぎ見  
ながら一人でも多くの方を招  
き、喜びも悲しみもともに分  
かち合える、主にあつて一つ  
となる教会を牧師先生、教  
会員の皆様と築いていけたら  
思っております。

メールアドレス変更  
熊本教会 杉本洋一 牧師：  
sugumoni@gmail.com

メールアドレス変更  
熊本教会 杉本洋一 牧師：  
sugumoni@gmail.com